はじまりは「赤い羽根」

1947年 赤い羽根の考案に参画

人々の厚意の結晶である共同募金の精神と羽毛が持つ優しさ、あたたかさに同じ心を感じ、「羽毛こそがシンボルに相応しい」そう考えた人の中に東洋羽毛の創業者 横田春夫がいました。「赤い羽根」の供給に携わり、羽毛の優れた特性を知った創業者は、寝具としての可能性を見出し「羽毛寝具の普及を通して日本の生活文化の向上を目指したい」という使命感を持ちました。そして自らの手で製造工程を研究し、品質を第一に考えた「羽毛ふとん」の製品化へ歩みだしました。



東洋羽毛では「赤い羽根」の一部を
赤い羽根の中央共同募金会に寄付しています。

「南極地域観測隊」と東洋羽毛の歴史

1956年 第1次南極地域観測隊に羽毛服を納入

1951年頃から日本山岳会マナスル登山隊と共同研究を行い、マナスル登山隊、エベレスト登山隊、当時の防衛庁に羽毛服やシュラフを納入していました。その実績が認められ、戦後の日本の復興をかけた国家プロジェクト「南極観測」の越冬隊用羽毛服の依頼が舞い込みました。その後、ダウンジャケット部門は分離独立して「株式会社ザンター」となりますが、今でも南極地域観測隊（越冬隊）で使用されている一部の羽毛服には、東洋羽毛の羽毛が使用されています。



第1次南極地域観測隊 羽毛服（レプリカ）

2022年～ 南極地域観測隊（越冬隊）に羽毛ふとん他寝具一式を寄贈

南極地域観測隊の眠りをサポートするため、2022年から南極地域観測隊（越冬隊）に羽毛ふとん他寝具一式を寄贈しています。また、2024年からは南極地域観測隊で使用され役目を終えた羽毛製品を引取り、中の羽毛を丁寧に洗浄して、南極地域観測隊への新たな寄贈品の一部に再利用しています。私たちは、持続可能な未来に向けて循環型寝具の寄贈を行っています。



2022年 第64次南極地域観測隊の皆様と



2023年 第65次南極地域観測隊の皆様と



2024年 第66次南極地域観測隊の皆様と



2025年 第67次南極地域観測隊の皆様と

2026年 国立極地研究所 南極・北極科学館に展示用羽毛ふとん他寝具一式を納入

2026年3月に国立極地研究所 南極・北極科学館リニューアルに伴い、昭和基地内隊員の個室展示用として、寄贈品と同様の羽毛ふとん他寝具一式を納入しました。





南極・北極科学館 昭和基地内隊員の個室展示

働く皆様の健康を「快適な眠り」でサポートします

1957年頃 働く皆様への職域販売が始まる

1948年（昭和23年）アメリカの指導により新しい看護制度と看護教育制度が発足しました。創業者は、多くの看護師や医療従事者に直接面会するうち、常に命と関わりのある職業上、精神的にも肉体的にも苦労が絶えない大変な職業であることを知りました。そして、「医療に携わる人たちや病院の現場でこそ、羽毛ふとんで快適な睡眠をとってほしい」と願うようになりました。そこで、病院のベッド用と医療従事者の当直用として羽毛ふとんを製造し納入を始めると、その品質や機能性を知った多くの看護師から、自宅で使う寝具として要望があり、需要が増えていきました。現在は、医療・福祉・官公庁・地方公共団体・学校等の様々な職場で、仕事と家庭を両立して働く皆様の健康を快適な眠りでサポートし続けています。

